

南巨摩郡医師会の現況について

南巨摩郡医師会は、ここ数年大きな変革の波の中で揺れ動いています。まず、平成の大合併により、かつての7つの町が増穂・鯉沢・身延・早川・南部の5つになりました。これに伴い、組合立飯富病院は旧下部診療所を吸収し、南部町は新たに万沢診療所を開設いたしました。次に会員の高齢化により、飯島医院、坂本医院そして巾医院が相次いで閉院になりました。さらに昨年、南巨摩郡医師会長として全会員の心の支えであった遠藤凱昭先生が逝去されました。これまで我々をご指導されてこられた遠藤前会長に追悼の意を表しますとともに、閉院された大先輩の先生方に心から感謝申し上げます。その他、社会保険鯉沢病院に新しく中島育昌院長が赴任され、身延保健所は峡南保健所となって鯉沢町に移転になりました。これらの変遷を経て、現在、南巨摩郡医師会は4病院、14診療所、総勢44名（うち免除会員3名）で構成されています。南北に長く、山間部ばかりの地域特性ですが、これらの病院・診療所が適当に配置され、地域医療を担っています。

南巨摩郡医師会の主な行事は、奇数月に行われる定例勉強会です。講師を招いての講演会と、症例検討会を行います。よく学び、よく遊べ、を真

践するのが会員のモットーですので、勉強会の後の食事会・二次会の出席率も100%に近く、楽しい時間は深夜まで続きます。医師会研修旅行は毎年5月の第3週末に行われます。日頃の感謝と罪滅ぼしを兼ねて、奥様同伴での旅行としています。ゴルフ組と観光組に分かれますが、夜の宴会では夫婦の隠れた一面を垣間見る事があり、新たな発見のある楽しい経験です。

ゴルフは同好の士が集い、「富翔会」と名づけて年に4回コンペを開催しています。20年以上の歴史があり、3月で94回を数えました。今回は医師会の新会長となった小野先生が優勝しました。

南巨摩郡は気候が温暖なためか、会員の皆様も穏やかな方が多く、医師会も非常に円満に運営されています。病院の若い先生方も密に連絡ができ、病診連携が上手く機能している地域です。今後、政府の行財政改革や医療改悪で地方の医療福祉がどのように変化するか予測できませんが、どのような状況になろうとも小野新会長の下、手を携えて過練・高齢化の進む地域の医療を支えてゆきたいと考えていますので、ご協力をお願い申し上げます。

(南巨摩郡医師会 久津間健治)